

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幢ケ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 700円

6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

資本主義的合理化の本質

向坂先生に学ぶ(二)

原野人……2

エジプト民衆はなに望む

—軍と民衆の利害は一致できるか—

滝野 忠……4

ものすごい経済発展 農村から都市へ

—ベトナム訪問記—

相田 邦夫……5

無責任体制と「日の丸・君が代」

西村 昭……8

TPPを検証し、地域を守る……………9

—北海道上川町安部逸雄議員の質問—

問題がいっぱい「人事・賃金制度の見直し」……………11

—国労運動発展にむけて—

読者からのおたより……………13

旬刊 社会通信

NO. 1091

二〇一一年三月一日号

二〇一一年三月一日発行
(毎月一日・十五日二回発行)

資本主義的合理化の本質

向坂先生に学ぶ(二)

—

治安維持法で臭い飯を経験した父は、小学校しか出ていなかったが、書棚に『資本論』(旧訳)を持っていた。封建制を妙に強調する講座派は間違っていると、社会党に入り茅野市議も務めた。なかなかできたのに親が少しばかりの田畑に縛り付けて中学に進学させてくれなかったことを最期まで悔やんでいた。せめて農閑期にはと、マチスに師事した中川紀元氏の内弟子となつて、二科展などに出版していた。自然保護運動にも早くから力を入れた。しかし『資本論』の理解には苦労したらしい。

自営農に資本主義的合理化の意味を理解するのは至難のことだ。無理して耕運機を購入したことによって、農作業がどんなに楽になったことか。何日分もの重労働を機械はたったの一時間でしてくれる、過去何十年もして来た自分の労働は、この半生は、なんだったのだろう、と父は慨嘆していた。重労働をなくする機械の導入が悪かろうはずがない(独占利潤として搾取されることは別にして)。

しかしこの場合は、自分(達)の機械であり、土地だからこそだ。機械装置の資本主義的使用は必ず労働者を犠牲にする。父が資本主義的合理化や生産性向上の意味を理解できるようになったのは、向坂先生の諸論文を読むようになってからのようである。先生はどこまでもマルクスに沿つて、明解である。

「良い合理化と悪い合理化とがある、というおとぎ話がある。それはブルジョア経済学のいうところである。労働者をごまかすためにつくり出されたことである。マルクスは、その正反対にこういつている。そういうウソは言わなかった。『機械装置の資本主義的使用と不可分な矛盾や敵対関係は存在しない。それらは機械装置そのものからではなく、その資本主義的使用から生ずるものだから!』したがってそれ自体としてみられた機械装置は、労働時間を短縮するが、資本主義的に使用されれば、労働日を延長し、それ自体としては労働を軽減するが、資本主義的に使用されれば、労働の強度を高め、それ自体としては自然力に対する人間の勝利であるが、資本主義的に使用されれば、自然力によって人間を圧伏し、それ自体としては富を増すが、資本主義的に使用されれば生産者を貧民化する……」(『資本論』岩波文庫版第二分冊四三八頁)といっている。労働者階級をだますことをしない。

労働者階級は、機械装置を資本主義的に使用することに反対する。つまり資本主義的合理化に反対である。しかし、われわれはかつてイギリスにあったラッダイト(機械破壊論者)ではない。機械の資本主義的利用に反対するのである。すなわち資本主義に反対するのである。社会主義者として資本主義的社会に反対するのである。だから、物理や化学の力を資本主義社会的に利用して、労働者階級の不幸にするように使用することに反対するのである。だから、資本主義に反対するより外にない。資本主義に反対する力は、つねに組織を質的に量的に強化するようにたたかうのである。この力を結集するためにたたかうのである。」(『嵐について』新評論)

日本共産党も「よい合理化と悪い合理化とがある」としていたことが想起される。かつてソ連のマルクス・レーニン主義研究所のソボレフ教授との交流を深める中で、氏の資本主義的合理化についての理解が、マルクスから少しずれているように思われた。このことでも、ソ連のマルクス・レーニン主義は大丈夫かなと感じたものである。

二

向坂先生は『なにをなすべきか』の中で、次のように述べている。

「生産力向上は社会主義社会でもどこでもやる、と日経連がいつている。これが資本主義のごまかしである。たしかに社会主義社会でもやる。ただ生産手段が社会有になっている社会では、どんな優秀な機械を採用しても、人間の首を切ることはできない。失業者をだすことはない。不用になった人間は、かならず、従来通りの生活水準を確保する職を得るまでは、職を失うことはない。だから失業者は存在しない。

資本主義社会では、『完全雇用』などというものはない。失業は、賃金制度における必須の条件であつて、失業がなければ、賃金はいわば無限に上昇して、利潤を食つてしまうことができる。そんな資本主義は存在しえない。資本主義は、失業者なくしては存在しない。だから、われわれは、この社会の『合理化』に反対である。資本主義に反対だからである。人間の生活と文化とを何よりも貴しとするからである。『合理化』は、資本が最後の日まで、それによつてのみ存在しうる条件をつくることであるからである。

したがつて、『合理化』反対ということは、資本主義的合理化反対ということであつて、労働者階級の歴史的使命を果たすためのたたかいである。資本主義的合理化反対は、この反対闘争の意味であつて、いかなる事態においても、『合理化反対』をくりかえすのではない。たとえば三池闘争のスローガンは、一五〇〇人の首切りに対する反対であつて、その歴史的な意味は、当然に資本主義的合理化反対であつた。敵は常に『合理化』という名をつけて、労働者階級に迫ってくるものではない。その時どきに資本家に都合のいい名前をやつてくる。かならず、労働時間の延長か、労働の強化か、首切りか、その他考えうるいろいろな方法で、資本の利潤の利益をはかるものである。資本主義の進展とともに独占資本の存続発展によつて、資本間の競争がつばぜり合いとなり、緻密に利潤、特に独占利潤の搾取が必要となつたために、資本主義的合理化に反対する労働者階級のたたかいが、主要なる反資本主義闘争となつたのである。この意味で、資本主義的合理化に反対する闘いが、現代の特殊歴史的な意味を持つものとなつた。」(『続 日本革命と社会党』社会主義協会)

同書の別なところでは次のように述べている。

「資本主義における生産力と生産関係の矛盾は、人間の幸福のために存する生産力が、長時間労働と労働強度の増大、低賃金と失業、生活の不安と貧乏という、人間最大の不幸の原因となるというところに最もよく現れている。オートメーションが『生産点』から、人間の手を、相対的だけでなく、絶対数の上でも減らすことは、オートメーションの最も発達したアメリカが、これを証拠立てている。(中略)アメリカ、

ものすごい経済発展

農村から都市へ

ー ベトナム訪問記 ー

今、ベトナムへ行く外国人は、中国人、フランス人、韓国人、欧米人そして五番目に多いのが日本人との事。米国人はこころ二年多くなっていると聞いた。

突然、昨年十一月十八日から二十二日の四泊五日の日程で、新潟空港からソウルの仁川空港経由でベトナムの首都・ハノイとホーチミン（旧サイゴン）の短い旅の話が舞い込み気軽に行ってみる事になった。以下、旅先で知った感想記である。

建設ラッシュとベトナム流「社会主義」

小生の二十歳台、今から四十年以上も前、全通労働者として郵便課で仕事をしていた頃、毎年のようにストライキがあった。総評の呼びかけで職場闘争とベトナム反戦ストを闘っていた。あの頃「第二、第三のキューバを、第二、第三のベトナムを」という事が活動家の間で囁かれていた。一昨年のキューバのハバナやサンタクララの旅を共にした全通の大先輩に誘われるまま、わずか十人の観光団の一人として、長年の夢が叶えられる楽しい収穫の多い旅となった。

旅のはじめに目にとび込んで来た高速道路から見る街並みは、ビル建設中のラッシュである。

地震のない国で、高層建築がドンドン建てられている。建築中のビルにクレーンがあちこちでみられる。日本のかつての姿である。一方で、日本ではめずらしい建物が目をひく。間口が三間位、奥口が十数間、三階建て、長方形の家で、建物の両側は窓がない。従って、家の前と後からしか明りが家には入らない。街の中にあるこういう家は、両側のカベとカベが隣りどうしはピツタリとくっついている。日本でも市街地では「うなぎの寝床」のような家として、たまに見うけられるが、ビルがこういう形で建っているのは世界的にもめずらしいのではないのかな。一階は商店、仕事場で、二・三階は住居として使用。ベトナムでは土地は国有地で土地は間口割で借用料・税の形で個人が国に納めるとの事。そんなわけでこういうビル・住居・店舗が最近多く作られるようになったとの事。今回、ベトナムへ三回目という同行の先輩は今まで見られなかった建物だと言って驚いていた。これがベトナム流社会主義の一つの姿なのだろうか。

ハノイで信号機がない道路をバイク（ホンダの車がほとんど）の若者、車がひっきりなしにびゅんびゅん行き交う。ホーチミンでも同じだった。それでもホーチミンは、信号機が少しあったので添乗員といっしょにベトナム人の現地通訳を先頭に四車線位の道路を横断する経験をした。命がけの道路の横断の秘訣は、日本とは逆でゆっくり歩いて横断する。そうする事でバイクも車も歩行者を避けてくれる。十年前の上海よりたいへんだった。現地通訳氏によると一年間に一万三千人の人が交通事故死をするとの事である。

セブンイレブン、日本人商店街

食事時にサイゴンビール飲んだが、ビールと言えば今年の秋には、サップロビールがベトナムにビール工場を完成するとの事。

観光客用のスーパーのようなみやげ物店ではアオザイや刺繍の絵、チョコやコーヒー等々が販売されており、アオザイは、その場で寸法をとって仕立ててくれるという。日本の若者にベトナム人気が高まっているのもうなづける。刺繍の絵を織る若い女性が二十人位売店で実演し、すごい量の絵を飾っていたが、その人達を良くみると枯葉剤で障害を持って生まれて来た人達だった。日本人にとって枯葉剤と言えばベトナム、ドクちゃんが有名だが、ベトナム戦争によって、米軍の枯葉剤の犠牲者となった人々が、今日なお非常に多く暮らしている事を思い出させてくれた。

バスで移動中、セブンイレブンのコンビニの進出が目立った。ホーチミンでは、日本のラーメン店、鮎屋、お好み焼き屋等の日本人商店街があった。ハノイの周辺では、五社から十社位の小規模の工業団地をいくつか見掛ける。工場のまわりは、ビツシリとバイクが二〇〇〜三〇〇台か、五〇〇〜一〇〇〇台かと思うほど、整然と揃えられていた。両市とも朝晩二時間位は、特に物凄い通勤ラッシュである。ベトナム人は、朝食と昼食は外食で夕食のみ家族で食べる習慣となつているという話にはチョット驚きであった。

二毛作のコメづくり農業が中心で、南岸沿いだけ三毛作だとの事。牛を使つての田おこしは、のんびりムードだ。気候が良く、食糧が豊富な国だからあくせく働かないのかなと思う。コメでつくつた麺料理・フォーは旨かった。クチトンネルへ行く道中、フランス人が植えたとの事。今後、ベトナムは、二〇一五年にはコメの輸出国として世界最大になるとの事。現在、コーヒー豆は、世界第二位の産地で、今後、コーヒー豆の輸出を考えると農業大国としてT P Pに参加表明して自由貿易にカジをきるようだ。脱中国戦略のあらわれだと民放(N・JAPAN)が一月に入って報道していた。かつての日本が農村部から都市部へ人口が流れたようにベトナムでもハノイとホーチミンを中心に農村から都市への人口の流出がすごい勢いで進んでいる。そうすると農業の担い手はどうなるのか。都市労働者と農業の担い手との格差は生じないのか。今から危ぶまれる。

平均年齢二七歳

ベトナムでは「先生の日」(祝日・十一月二十日)に遭遇した。祝日数日前になると星印の国旗とカマとハンマーの党旗の大きな幟旗や小さな国旗が街中に溢れていた。当日は世話になった恩師や親に子供が花束を送るとの事。彼氏が彼女に花束を送る場合は求婚の意味だそう。さすが南国は一年中花が多いから花屋さんがあちこちで花束を店先に何十束も作って売っていた。

日本では聞いた事のないような誠にうらやましい限りの習慣だ。ホテルの玄関口に花束がある場合は、結婚式を行っている場所との説明だった。ベトナムは今、結婚ブームである。全人口八千六百万人の内、三五歳以下の戦後生まれは、七〇%で、平均

年齢が二七歳という若者中心の元気のいい国だ。この先二〇〜三〇年は日本の高度成長時代のような勢いで発展しつづけるだろうが、その後の高齢化社会が今から想像できる。

ハロン湾、クチトンネル

ハノイでは「ホーチミン廟」を見学。かつて見学したレーニン廟や金日成廟と同じような形式だ。冷戦時代と違ってさほど物々しくなかった感じだ。

ハノイから一八〇km離れた世界遺産のハロン湾は、大小約二千に及ぶ奇岩の島々が東西一〇kmの範囲に散らばっている。木造船に一行・十人は乗船して約三時間、昼食をとりながら奇岩の島々を堪能した。数十隻が一度に湾にでも島々に波が吸収されるのか静かな湾内の海だった。こんな海の桂林と言われる風景をみながら、一昨年旅したキューバの・ハバナの風の唄・でも聞いてみたいものだと思ふ位、静かな湾内だった。湾内の最後には船を降りて陸上の中のめずらしい鍾乳洞を初めて見学する事ができた。ベトナム戦争時は知られていなくて、最近、公開されたというめずらしいものだとの事である。

ベトナム戦争時、ゲリラ戦の舞台となったジャングルのクチトンネルへは事前に行く事が知らされていた。従って、第二次大戦時、日本軍が万一の時、大本営を東京から長野県に移転する為、「松代」に数千メートルにわたり、地下トンネルを掘っていたものでぜひ一度みておきたいと思ひ、直前に訪ねた。高さ三〜四メートル、巾五〜六メートル位、奥行五百メートル程が二〇年位前から一般公開されている。そこは岩山の岩盤をダイナマイト等を使って朝鮮人等が掘らされたと書かれているが、人数やどういう人達が掘ったのか実態は、本当の所はどうだったのか日本の敗戦後、六五年を経過しても明らかにされていない。日本本土の決戦時には戦争遂行の幹部はあんな穴蔵に立て籠って米軍と闘う気だったとは正気の沙汰と思えない。戦争中に大本営は長野の岩山の中に穴蔵掘り、そこに隠れて作戦を立てるようでは、米国に敗北するわけだとクチトンネルに入る経験をしてみて強く思った。

今は観光客用に当時の仕掛け、装置が目で見られる形につくられていた。それよりも当日、偶然にもスコールの後のクチの地下トンネルに入ってみて、トンネルは巾、七〇〜八〇センチメートル位、高さ一メートル二〇〜三〇センチメートル位の真暗闇の中を二〇メートル位、進んでみる体験をしてゲリラ戦に勝利した実態を知ることができた。雨上がりにもかかわらず粘土質のため、ねばっこく、くずれず、水を吸収して立て籠ることができた地質だった。蟻の巣のように数十キロにわたり地下トンネルを掘って、後に米高官は「ジャングルに兵士はいない。しかし、兵士はどこにでもいる」といわしめたゲリラ戦を展開したからこそ圧倒的物量をほこる米軍に勝利した。

この体験のあと、お茶をだしてもらい、「タロイモ」をはじめ食べて食べた。日本の「さつまいも」のようにホクホクしておいしかった。沼地のような所に、日本のサトイモのような葉っぱの根に生えるものだ。

サイゴン陥落 三五年

戦争犯罪博物館の見学では戦場のカメラマンとして勇名になった沢田氏の撮影した「幼い少女」が裸で多くの人々と逃げ惑う姿は、あんなに多くの写真からすぐ見つけられることができた。いかに残酷な戦争だったかおびたらしい一枚一枚の写真が物語っている。博物館内外に戦車、銃器等々がもちろん展示してあった。

今は、統一会館と呼ばれる元大統領官邸に入り、一部屋ごとに説明を受け、最後にグエンバンチュー大統領が米国に亡命した屋上にはヘリコプターがおかれていた。ここが当時報道されたサイゴン陥落の歴史的舞台か。大統領とわずか数人だけが逃げることができ、後の者は足蹴にされてヘリに乗れず亡命できなかった事を思うと、その舞台に立ってみて感無量であった。あれからも三五年も経っているのか…。

次に、今回の旅の始めに気になっていた新幹線や原発等について記したい。

今、ハノイとホーチミン間は汽車で一五時間かかる。ここを日本の新幹線を通すと片道六時間で往来できる。そのためにも原子力発電所の電力が必要だという。上下水道等のインフラ整備やレアアース共同開発合意も喫緊の課題である。日本政府は、「国際原子力開発」という国策会社を十月に設立し、ベトナムの原発の受注に成功した。トルコの原発受注も有望だという。反核運動と連携して原発輸出反対運動を盛り上げていかねばならない。

最後に、最近マスコミでは、ベトナム共産党や政府の人事移動についてこと細かに連日報じている。ベトナムと中国の間には領海をめぐって拿捕事件がおきている。これらの事について、現地では当時、ベトナム共産党の幹部が多勢、何カ月も中国に呼びつけられたと聞いた。その意味する所は何なのか。今、日本海沿岸同様、インドシナ半島情勢から目を離せないという思いを強く感じた旅であった。（相田 邦夫）

無責任体制と「日の丸・君が代」

最近の上級審もたまにはまああの判決をだすこともある。例えば米軍基地の騒音訴訟など。しかしこれは普天間基地の辺野古移転が不可能になった沖縄の政治情勢が関係している、沖縄県知事、名護市長の動向が判決に影響していることはいまでもない。これに比して東京の「日の丸・君が代」裁判の見通しは悪い。

来る東京都知事選挙の結果も裁判に与える影響は大きい。責任ある都政を実現し、崩壊している教育の再生のために、都知事選挙の勝利に向けて強力な態勢を作ることには急務である。

私たちは強制は不当ということで争っているのだが、元の「日の丸・君が代」反対で争えないのは最大の弱点である。国旗国歌法は数々の悪法と一緒につくられてしまったのだが、私たちは有効な闘争をすることができなかった。それはオリンピックやサッカーワールドカップとなれば「日の丸・君が代」が氾濫することも一因であり、これが裁判官にも影響を与えないわけがない。

多くの国民が「日の丸・君が代」に浮かれてしまうのはなぜか、それは敗戦時、侵略戦争を始めた国の責任を不問にし、戦争を早く収束させることを怠った責任もまっ

たく問わず現在に到っていることに原因がある。

当時の最高権力者、マッカーサーも天皇制を温存し、世界でただひとつ原爆の被害を受けた国というよりは、ただひとつ戦争被害や植民地支配の責任を取っていない国になっている。有光健氏は性暴力被害、強制連行、細菌戦人体実験、原爆被害等々国外一四項目、国内七項目にわたる未処理の戦争被害を指摘している。

東京大空襲や沖繩戦の前に戦争終結についての近衛上奏を天皇は退けたが、もしこのとき戦争終結に向けて動き始めていれば悲惨な東京大空襲や沖繩戦はなかったであろう。さらにヒロシマ・ナガサキ、ソ連参戦の前にポツダム宣言を受諾しなかったのは天皇制を温存するためだったが、七月二五日に発表されたポツダム宣言を早期に受諾していればヒロシマ・ナガサキ、ソ連参戦はなかったのである。

ほとんどタブーの天皇制批判につながるためか、このことを東京大空襲の被害者や沖繩の人たち、満州開拓民やシベリアに抑留された将兵、ヒロシマ・ナガサキの人たちはまったく糾弾することができないでいる。原爆投下の責任追及をアメリカに対して行うのは当然ではあるが、本来戦争被害の責任追及を戦争相手国にするのは筋違いである。

日本やドイツが先に核兵器を開発していたら連合国に対して使ったであろうことも想起する必要がある。責任追及は日本政府にこそしなければならぬ。

核廃絶や核の傘からの離脱は当然として、核兵器だけに反対するのはおかしい。通常兵器だって人道的であるわけがない。南京事件や重慶爆撃はヒロシマ・ナガサキに匹敵する非人道的被害を与えている。私たちは戦争にこそ反対しなければならぬ。そして侵略戦争を始めてそのうえ無駄に戦争終結を遅らせて、とてつもない被害をもたらした日本政府の責任こそ重大なのである。それをあいまいにしてきたから「日の丸・君が代」が大手を振っているのである。

(西村 昭)

TPPPを検証し、地域を守る

―北海道上川町安部逸雄議員の質問―

北海道は日本の進路そのものだ。一九五〇年代「黒いダイヤ」が日本経済復興の原動力となった。そしてサケ・マス漁は食の中心となり、六〇年代以降、紙パルプ、造船・鉄鋼産業が日本をけん引した。一九七〇年代末の鉄鋼・造船不況はこれら産業を死に追いやった。一九八〇年以降は国鉄、電々公社民営化で地域の荒廃ばかりか、若者の職を奪った。北海道は今「日本の食料基地」。ここに財界(独占資本)が農地収奪を目的とするTPPPが襲ってくる。

北海道ではTPPPに反対する運動、議論がまきおこっている。ここでは北海道上川町議会会で安部逸雄議員の質問を紹介する。

(編集部)

政府が環太平洋経済連携協定、いわゆるTPPP協定への参加を一〇月二七日に発表し、全国から賛否の声が上がっています。二〇二〇年に食料自給率五〇%を目標としていた農業にどれだけの影響が及ぶのか様々な数値が発表されています。

関税撤廃となれば、北海道の自給率は二一一%から六四%まで下がると道の試算が出され、全国でも四〇%の自給率が一三%まで落ち込むと伝えられています。経済界

の中でも輸出産業と輸入産業、選内と選外で意見が分かれています。

町を代表する基幹産業でもある農業問題です。国の将来を左右する問題だけに十分な時間も必要ですが、この問題に対する町長の考えを聞きたいと思います。

経済界の中でもその新興国の関税の低さから少益となっている焦りだとか円高に對する懸念の中、法人税率の5%削減。5%削減という要求などもこれが実施されれば一兆五千億円くらいになるわけですから、こういうような形でTPPへの参加を促すような期待がその産業界からでているわけなんです。

農業政策は約九兆円。これがGDP（国内総生産）にすると一・五%。それに対して国の予算は農業関係に五兆円の支出をしていると。これ赤字国債にすれば一・五%強なんだというような指摘もあります。そういうような形で大変厳しいこのTPP問題については選択になるわけですから、将来像をいずれにしても描かなければならないという部分からすれば、大変厳しい状況の中で結論を出していかんきやなんないのかなと。

島国という観点からいけば輸入がされなくなってくれば大変な問題ですから、自給率をなんとかして下げるわけにいかないという課題がやっぱりそこにあるわけです。この自給率の向上なくして食の確保はできないというふうに変化が大変、難しいわけですが、やはりそういう部分では国際的な食料安保（食料安全保障）っていうのを築いていかないとならないと考えます。少し古い話になりますが、GATT（ガット）関税貿易に関する一般協定）ウルグアイ・ラウンドでこの輸入自由化、開いたわけです。

これに対して六兆数百億円の対策費を国家は予算としてつけたわけですから、でもそのつけたお金はどういうふうに消えていったのかなっていったら農業の基礎体力をつけるだとか農業のためについていうような形ではなかったですね。結局、農村広場だとか飛ばない飛行場をつくったりだとかそういう土木費に消えていったわけですよ。結局、農家が今、何を要求しても何を欲しているのかっていう部分について六兆数百億円は使われなかったというような形を考えますとね、あれが本当に農業対策、農家の強化につかわれているような形であれば今回のTPPの問題についてもまた、違った意味の議論ができたんじゃないかなって感じがするんです。

最終的にはTPPに対しても国家の予算が財源がないというような形ですから、やっぱりそういう部分の中で本当に農家そのもの自身が本当に大変不安な状況に置かれているというような形でありまして、そういうような国の迷走するその農業政策ですね。農家戸数は減ってます。これ以上、生産性を上げるわけにいきませんから、町民にきちっとその町長の姿勢って言うものをアピールするために最後にひとつ町長の決意等をいただきたい。

※上川町は典型的な農業の町。生産額は米、ジャガイモ、大根、そばを中心に年間一九億円。TPPではほぼ壊滅状況の七〜八億円に減少すると見積もられている。

問題がいつぱい「人事・賃金制度の見直し」

— 国労運動発展にむけて —

一月一三日、J R東日本は、会社発足以来の「人事・賃金制度の抜本的な見直し」を提案してきた。実施日は四月一日という性急さであり、「抜本的な見直し」というのであれば、労使で議論できる時間、職場で討議できる時間をもっと充分にとるべきではないのか。

私たちは勉強会で、新制度の問題点を以下の通りあげてみたが、まだまだ不十分だと思われるので、職場の討論で補充していただきたい。ともすれば、「自分の場合どうなるか？」だけに目が行くが、若い世代のこと、年配の世代のことなどに思いを至らせ、労働組合らしく全労働者の立場から考えていきたい。

二月一〇日のエリア本部委員会でも、しっかりした議論と闘う方針の確立をお願いしたい。「労働条件に関する協約」締結の議論など、している余裕はないはずだ。

上に厚く、上を向く者にも厚く、という見直しの基本方針

会社は、急激な世代交代の中で人材育成・技術継承が課題であり、そうした職場の課題を解決する役割を担う管理者の処遇の向上を図る。意欲を持って自らの成長の機会を求める社員が達成感を得られるようにする、のが見直しの目的だ」と前文で述べる。つまり、上に厚く、上を向く者にも厚く、という基本方針のようである。そして見直しは、一項 職制（就業規則）、二項 昇進制度（昇進基準規程）、三項 賃金制度（賃金規程）等広範囲に及ぶ。

大きな改正点は、①職制に新たに「専任職」「統務職」を作ったこと ②昇職試験は統務職までとし、昇格については「審査」、助役以上の昇職へは「考課」にしたこと、「飛び級試験」の新設、「在級年数の短縮」制度の充実 ③基本給表を廃止し、各社員の賃金は「〇等級〇号俸」から「〇〇職〇等級〇〇〇円」へと変わる（四号俸による定期昇給が、「昇給係数」四の「所定昇給額」に変わる）。

年齢保障給などが廃止され、「役割手当」という上だけに暖かいものが「基準内賃金」として新設。昭和三六年四月二日以降生れ（実施日現在五〇歳未満）については五五歳以上の基本給が一〇〇％になる ④五五歳以上の基本給に関し、昭和三六年四月一日以前生れについては八五〜九八％の経過措置が置かれる、ということだ。

以下、問題点を見てみよう。

定期昇給の切り下げを平然と提案してきた会社

会社は一月一三日の提案で、基本給カーブの見直しについて、「昇給制度の改正と併せ五五歳以上の賃金を段階的に引き上げる、ということが今回の大きな柱である。

：採用給が少しアップして、その後定期昇給額の若干の見直しをかけ、：三〇歳代半ば以降で交点がきて、それ以降は現行を下回ることになる。イメージとしては昇給額の見直しで生み出したものを若手と五五歳以降に持っていき、さらに会社が持ち出しして五五歳以降フラット化するというのが基本的な発想である。」「現行制度より定期

昇給分が若干下回ると言ったが、下回り幅は現行の一割弱ぐらいだと思っている。金額にすると数百円程度ということである。」と説明している（国労東日本「業務連絡」No.一〇〇八 P五〜六）。

会社の持ち出しがあるとはいえ、初任給のアップと五五歳以降賃金改善の原資は、昇給額の見直しだということ、そして、それにより定期昇給分は現行制度を下回ると、会社はあからさまに語っている。

具体的に見てみよう。現行の基本給表で一号俸の差額は、二等級の五三号（二〇万円）〜一二〇号（二九万円）で一三〇〇円（廿一〇〇円）、四・六等級七号〜二〇号で一六〇〇円（廿一〇〇円）である。四等級の人が定期昇給で四号俸六三〇〇円上がっていたのが、指導職一等級の「所定昇給額」は五五〇〇円だから八〇〇円の切り下げになる。

なるほど、二等級で切り下げ額が小さいのは、会社の説明による採用時〜三〇歳代半ば以前を想定しているからだろう。しかし、国労組合員の大多数を占めるのは四等級クラスであり、被害は甚大である。

最近の春闘は、ベースアップどころか定昇の攻防と言われて久しいが、第一の問題として、今回の会社の提案は、五五歳以上の賃金改善を口実にした定期昇給の切り下げ（賃下げ）であり、これに反対せずして二〇一一年春闘はないと言ってもいいだろう。私たちは、会社の定期昇給分の切り下げ（改正後の「所定昇給額」）を許さず、現行定期昇給ベースでの「所定昇給額」にさせなければならぬ。

年金や貯金じゃあるまいし、基本給カーブに「積立」はなじまない

さらに会社は、昭和三六年四月一日以前生れの五五歳以上の基本給カーブの経過措置について、「基本的な発想として、定期昇給額の一部を積み立ててもらおうということとを述べた。その関係で現在すでに五五歳以上になってしまっている方々には、定期昇給がないので、その方々については、原則としては現行どおり九〇%、八〇%となってしまうのだが、それに対して一定の経過措置をつけた。」つまり、現在の五五歳以上は「積立額のない方」なので八五%（・九〇%）。五五歳に達していない社員には「本人に積み立ててもらおう」として（同「業連報」P七）、九〇〜九八%。

基本給カーブの問題で積立という発想はなじまないが、「積立額がない」という五五歳以上は、もうすでに何年何カ月か、一〇%・二〇%カットされ、十分な積み立てをしているはずである。五五歳以上は、豊富な業務知識でこれまで後輩育成の一端を担ってきた。「高齢減額」は、高齢者を「余剰」と考えてきた時代の遺物であり、第二の問題としては、八五%にとどまらない経過措置全般の改善が必要である。

二年後に始まる待たなしの国家的問題にダンマリ！

第三の問題は、二年後から始まる年金支給開始年齢引き上げに関連する問題が提案されなかったこと。例えば二〇一三年四月二日以降六〇歳を迎える昭和二八年生れから、六一歳にならないと年金が支給されないという問題があり、会社は、現在の六〇歳定年を一歳ごと引き上げていくか、そうでなければ六〇歳定年はそのままにしても、

エルダー雇用において年金が支給されるまでの賃金を改訂するか、どちらかの方法を提案しなければならぬ時期にきていた。国労の指摘に対し、「六〇歳退職」「提案がないのは現行どおり」「別事案」(同「業連報」P一〇〇〜一一)だけですまされるものではない。

競争をあおる施策目白押し

ますます社員の競争をあおる施策が目白押し、職場の人間関係は壊れるばかりであることだ。第四の問題は―

① 昇職試験について。現行規程で、四等級の社員が主任職に合格した場合、合格年度に五等級(四号俸)、翌年度六等級(五号俸)だから合計一万四四〇〇円程度上がるが、新制度で指導職一等級が主務職試験に合格した場合、翌年度四月一日、基本給に一万五〇〇〇円の「昇格昇給額」が加わる。定期昇給の切り下げについてはすでに述べたが、試験に合格した場合は逆に現行制度より昇給額が多くなっている。

② 受験資格の「在級年数」の短縮については、現行一段階に比べ、「社内通信研修講座終了による短縮」も含め三段階が用意された。「職務遂行能力」「勤務成績」といった人事考課がより威力を発揮する制度になっている。指導職一等級から統務職への(四階級)「飛び級試験」まで用意された。

③ 年齢保障給の廃止は経過措置もなく実施される。そのため昨年入社の人と今年の人とでは数万円の差が生じることになる。

④ 基本給表(一般社員の場合、現行一三万二六〇〇円(一一一)〜四七万二九〇〇円(二〇一―二二五))という広がり)の廃止は、会社内での自分の賃金の位置を見えにくくさせる。

そもそも賃金は「労働力の再生産費」であり、労働者が衣食住を基本に子供の教育も含め、安心して生活できる賃金でなければならない(年齢給・勤続給を中心に扶養手当など)。会社は業績向上(利潤追求)のために、社員のやる気を引き出すような賃金支払い方法(職能給・職務給)をとろうとするが、それは労働者どうし競争させ、全体の賃金水準を低下させるものになる。だから労働組合としては、新制度のような、定期昇給よりも昇格昇給重視、人事考課重視、年齢給から職務給(「役割手当」)へとという見直しには、承服できないものがある。

◇ 読者からのおたより ◇

チャンス 新社会、社民党、共産党は手を組んで、まず自民党の議席を減らすことに邁進して下さい。低所得者は長い間痛めつけられたのですから、今がチャンス。(東京・W)

編集部より 共産党は政策中心、社会党は政権与党でもありたい、新社会党は護憲の戦線が当面の主張。統一地方選がWさんの思いと、ゆくえん、決めるかも。

新社会党を強める 労働戦線と自治体戦線の両面を欲ばって党強化に努めましょう。(千葉・O)

編集部より 労働戦線の分野でJC労働運動を理論的に批判し、地域から労働運動強めること。政治戦線ではなによりも地方議員の拡大です。ご健闘を。

国鉄闘争と教育 厳寒の大地にやがて、ふきのとう―音威子府闘争団 国鉄闘争に連帯する会―を思い出します。二三年におよぶ大闘争、やっと終わりに近づいています。人としての誇りをゆずら

ず：よかったと思います。三月末でやっど定年退職です。私も「教え子を戦争に送ら」なくてよかったです。また半年間よろしく。
(教師・O)

編集部より 「やっど」になにかホッとしたもの考えさせられてしまいました。
針路 進むべき針路としていつも勉強になります。向寒の折、滝野さんのご健康を祈ります。これからもよろしく。
(横浜・T)

編集部より Tさんのご健康こそ。原稿寄せていただけると嬉しい。

祈念 いつもたいへんお世話になっております。長く愛読させていただきました。今後のご活動を祈念申し上げます。
(北海道・S)

編集部より こちらこそたいへんお世話になりました。ご健康、ご活躍祈ります。

集まる ごぶさたしています。一年分の購読料。残金はカンパとして扱って下さい。月一回の集いも三年めに入ります。集まる人数は二十人と変化しますが、集まるのが大切と続けていきます。
(千葉・JUN)

編集部より JUNさんのこと、神奈川のJUNちゃんや八王子のMさんとよく話題に。

二ヶ月お休み 三月四月は転籍派遣でいません。二ヶ月だけお休みをお願いします。ただ統一地方選の市議選だけは応援できるように仕事を終わらせて帰りたい。
(埼玉・K)

編集部より お疲れさまです。お身体気をつけて。

足運んで お元気で全国を駆け回っていることでしょう。当地も本格的な冬の到来となってきました。仲間達となんとか労働運動の再生・強化に向けて、活動を進めています。当地に足を運んで下さい。
(北海道占冠村・I)

編集部より 二月一日日三泊四日の予定で帯広、音威子府に出かけます。占冠、暖かい時いい。

原点回帰 来年から原点回帰として『賃労働と資本』の学習会を考えております。その時はよろしく願います。
(私鉄労働者・O)

編集部より いいですよ。もちろん協力させてもらいます。労働運動、やがて荒れますよ。

今こそ「もの見方」 お元気ですか。残りはわずかですがカンパです。『通信』で全体的な状況が把握でき分かりやすい学習資料として学習させていただきます。今こそ労働者としてのもの見方・考え方が問われる時ですね。がんばります。
(北海道網走市・S)

編集部より 私め元気元気、若いお仲間と古典勉強会増殖中。
カンパ 残りはカンパします。少ないですが使ってください。
(群馬・T)

編集部より カンパに感謝です。さらになんばって。

北海道知事おそろしや かつての組合活動で経験したことのない争議が勃発！ わが家の大蔵大臣が私の小遣いを減額するという！ どうしたらよいかウロたえる。ひたすら窮状を訴え泣き落とし。今回はセーフ。北海道知事高橋さんよりおそろしや。
(北海道・I)

編集部より Iさんともそうですか。私の所も。アチコチどこも同じでしょう。仲良くやっていきましょう。ただし知事高橋には断罪必要。

カンパも いつもありがとうございます。一年分十ささやかなカンパです。
(東京・H)

編集部より しばらくお会いしていませんね。貴女の職場に二人してうかがいます。
JR JRはこれから女性社員をホームや信号担当業務につけたいと各組合に提案するそうです。
(神奈川・T)

編集部より 女性の職域拡大は歓迎すべきことですが、男社会の鉄道業界の施設、労働条件は？
かつて大騒ぎされた新幹線の女性運転士さんの時もそうでしたが。

職場 再任期の身となり区職執行委員を降りましたが、まだ分会活動は続けています。職場に降りてみると組合からの情報が少ないのが痛感されます。
(自治労組合員・H)

編集部より ある大車産幹部の話し。「なぜ組合が元気がないかの理由は、職場に元気がないから」
だつて。

今年是全国へ 今年石打(居住地)から出て、あちこち行きます。
(奈良市・稲葉 耕一)

編集部より 上京の際には連絡を。
期待 「通信」三十五年めに大いに期待。「国鉄闘争」も様ざまな方のご支援いただき大きく前進しました。最大の柱であるJR復帰「雇用」問題に共に闘いぬきます。本年もよろしく。

(北九州・I)

編集部より 「頑張りすぎずに、頑張って！」。いつも気になっております。